

六花

令和4年6月13日

新関小学校 学校だより 第2号

〒956-0825 新潟市秋葉区下新766

TEL: 0250-22-0995 FAX: 0250-22-6529

題字: 中村 白香

その活動や体験から、子どもは何を学ぶだろう ～育ちにつながる教育活動の積み重ね～

校長 石塚 智久

運動会ではたくさんの温かい応援をいただき、ありがとうございました。ご声援を受け、子どもたちは練習の成果を発揮し、精一杯取り組みました。最後まで先がわからない接戦で、多くの感動の場面がありました。競技が終了し、閉会式での子どもたちの様子から、飛び上がりそうに喜ぶ子、肩を落として悲しむ子、一生懸命取り組んだからこそそれぞれの表情をうかがうことができました。

運動会は、赤白に分かれて競い合う勝負です。どちらも勝利を目指して必死に戦いますが、残念ながら勝つ方と負ける方があるのが勝負です。勝った方は努力が報われ、とてもうれしい満足した気持ちになります。では、残念ながら勝利できなかった方は、この勝負から何も得ることができなかったのでしょうか。これまでの頑張りは、無駄になってしまったのでしょうか。決してそうではありません。



子どもたちにイギリスの医学者であるアレクサンダー・フレミングの功績を紹介しました。フレミングは、恐ろしい破傷風の原因となる細菌を調べていましたが、ある時その細菌を培養中に、容器にカビを生やすという失敗をしてしまいました。ところが調べてみると、そのカビこそが破傷風を引き起こす細菌を溶かしていることを発見したのです。フレミングが発見したカビから取り出された成分は、その後ペニシリンという薬になり、多くの薬品の基礎となって今も数えきれないほどの命を救っています。

中国に「ものごとが失敗に終わっても、失敗を役立てる工夫をすれば、逆に成功するものである。」という古い言葉があります。フレミングは失敗を失敗で終わらせず、よく考え、多くの命を救う奇跡の薬の発見という成功を掴みました。運動会や普段の生活も同じです。失敗したり、うまくいかなかったりすると、くじけてしまいそうになることが確かにあります。しかし、一生懸命取り組んだ結果であれば、自分にとってプラスになることがあるはずです。うまくいなくてもへこたれず、がんばった自分に自信をもって、次の目標に向かうこと。子どもたちには運動会を通して、そのような心のもち方を学んでほしいと考えます。



さて、6月20日から水泳学習が始まります。新型コロナウイルス感染予防の対策を徹底し、今年は全校一斉にプール指導を行う計画です。子どもたちもとても楽しみにしています。先日5、6年生が、プールサイドをきれいに掃除してくれました。暑くても、きつい仕事でも、汚れがあっても、全校のために「縁の下の力持ち」としてがんばりました。この作業も、実に学びの多い活動です。高学年は地道な仕事から責任感と奉仕の心を学びます。下学年はその姿を見て感謝と尊敬を学びます。プール清掃は、子どもに獲得させたい価値と目的をもった教育活動なのです。

運動会に勝って学ぶこと、負けて学ぶこと。プール清掃で働き汗を流して学ぶこと、その姿を見て学ぶこと。保護者、地域の皆様からも「この活動や体験から、子どもは何を学んだだろう。」ということ、ぜひ子どもとの対話を通してともに考えていただき、時に共感し、励まし、助言を与えて育ちを支えていただければありがたいと思います。学校も、そのような育ちにつながる教育活動の充実を図っていきます。